特集 他とかかわる力を育てる

自律した学習者を育てるために
はじめの１歩を支える工夫

竹内　理（関西大学）

はじめに

自律的な学習者を育てるために，教師は（学習者の）どのような側面に働きかければよいのであろうか。また，教科書には何ができるのだろうか。このような問いかけも課題に含めながら，我々は新しい教科書（平成 24 年度版 *NEW CROWN;24NC*）作りに取り組んできた。本稿では，*24NC* に導入された学習者の自律を促進するための工夫の一端を，紙幅の許す限りで紹介していくことにしたい。

自律を促すためには

学習者の自律（Autonomy）を促すには，彼らのどのような側面に働きかければよいのであろうか。ヒントは，昨今話題となっている自己調整学習（Self-regulated Learning）の枠組みの中に垣間見ることができる。この枠組みでは，学習者の自律を促すために Thinking，Doing，Feeling の３側面に配慮する必要があることを示している（竹内，2011）。

Thinking とは，「メタ認知」（Metacognition）とも呼ばれるものであり，学習の目標設定や計画策定，振り返りなど，実際の行動より１つ上のレベルと関わる側面である。Doing とは，実際の学習行動（Learning Behavior）や学習方略（Learner Strategy：学習者が意図的に採用する学習方法）と関わる側面である。３つ目の Feeling は，動機づけ（Motivation）や動機の維持（Volition）などと関係する，いわゆる「情意的」（Affective）な側面のことをさす。では，*24NC* において，これら３側面に働きかけるため，どのような工夫が導入されているのであろうか。

Thinking の側面

教科書を利用するとき，冒頭の数ページに着目することはまれであろう。しかし，*24NC* では，この部分に Thinking の側面での工夫がふんだんに取り入れられている。つまり，冒頭部分に「もくじ」とは独立して，「各レッスンで学ぶこと」が簡潔にまとめられているのである（下例参照）。ここでは，各レッスンでどのような文の構造を学ぶのか，またどのような活動をするのか，学びの目標と振り返りのポイントが一目でわかるように示されている。反対側のページにある「各レッスンの構成」とともに，レッスンを学ぶ前に，そして学んだあとに（教室や

各レッスンで学ぶこと

各レッスンで扱う内容が一覧できます。見通しを立てたり，学んだことを確認したりして，この表を活用しよう。

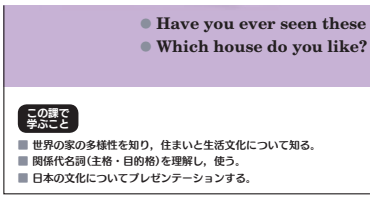
Lesson	題材	文構造（POINT）	活動
1 My Favorite Words	ことばの持つ力	The car is washed ...	好きなことばについてのスピーチをする。
2 Finland — Living with Forests	異なる自然 異なる文化	I have lived ... Have you lived ...? How long have you lived ...?	長く続けていることをたずね合い，レポートする。
3 *Rakugo* Goes Overseas	日本の伝統文化の発信	I have visited ... once. Have you ever visited ...? Tom has just finished ... Tom has not finished ... yet.	インタビューをして，その内容を書いてまとめる。
4 The Story of Sadako	広島の原爆	We call the dog Pochi. The book makes me happy. It is ～ for A to ...	世界の人々に向け，大切なことについてのメッセージを書く。
5 Houses and Lives	世界の家と生活文化	a book that is fun for ... a teacher who comes ... the letter that Koji received ... the book which I read ...	日本の文化についてプレゼンテーションする。
6 I Have a Dream	アメリカの公民権運動	the girl playing ... a book written by ... The country I want to visit ...	尊敬する人物についてスピーチをする。
7 We Can Change Our World	創意工夫と社会貢献	Tom wants me to ... I don't know why Amy is ...	会話がとぎれないように話を続ける。
8 English for Me	英語を学ぶことの意義	Koji is learning how to ...	未来の自分へ手紙を書く。

We're Talking

❶ 道案内／道順をたずねる	Could you tell me ... ?	❺ 日常生活／申し出る	Shall I ...?
❷ 日常生活／病状についてたずねる	What's the matter?	❻ 食事／食べ物や飲み物をていねいにすすめる	Would you like ...?
❸ 買い物／ていねいに依頼する	Would you ...?	❼ 電話／ていねいに依頼する	Could you ...?
❹ 日常生活／提案する	Why don't we ...?	❽ 学校生活／約束をする	Promise to ...

BOOK 3　P.4

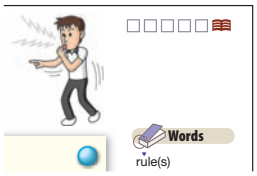
家庭で）利用することで，学習目標の明確化や計画の効果的立案，さらには学習内容の確認など，「戦略的な言語学習」（Strategic Language Learning）を平易に行うことが可能となる。各レッスン扉にある「この課で学ぶこと」（下例参照），およびレッスン末の「まとめ」（確認問題を含む）と併用すると，さらに効果的といえよう。



BOOK 3
LESSON 5

Doing の側面

実際の学習行動・方法と関わる Doing の側面での工夫としては，例えば，語彙の拡張を目的とした Word Corner の存在が挙げられよう。ここでは，関連のある単語をまとめて連想的に覚えていく（いわゆる「芋づる式」）記憶法が実践できるよう配慮されている。この方法は，語彙の記憶定着にきわめて有効であるといわれており（竹内，2007），家庭学習などで大きな効果が期待できる。また，「辞書の引き方と活用」を教科書中の随所に入れ，900 語から 1,200 語に増えた語彙習得が，教室外でも滞りなく進むよう工夫がなされている。さらに文法でも，「絵でわかる英語のしくみ」を 3 年間にわたり巻末に配し，とかく無機質になりがちな文法ルールを視覚的に概観し，復習できるよう注意が払われている。



BOOK 1
LESSON 7

これと関連して，*24NC* では学習方略として音読を推奨しており，標準として GET の英文を，さらに（学ぶ意欲の高い学習者には）発展として Read のまとまった英文までも，徹底的に音読することが求められている。このような学習方法を促進するために，音読しやすい文章を GET，Read に掲載するよう留意したほか，Read の右ページ上の角には音読回数を記録するチェックボックス（左段の下例参照）を配置し，音読の進捗状況を一目で見られるよう，成果可視化のための工夫をこらした。

Feeling の側面

中学 3 年間という比較的長期のスパンを考えたとき，学習動機を維持するためには，学習に社会性を持たせること，つまり人とつながりながら学習を進めていくことが重要であると考えられる。ペアやグループでコミュニケーション活動を行い，お互いに助け合い，学び合い，共通の目的を達成する。このような「協同（協働）学習」（Collaborative Learning）の「情意面」での大切さを指摘する文献は枚挙にいとまがない（たとえば今井，2011）。そこで *24NC* では，自然な形で協同学習が促進されるよう，ペアやグループでの学習タスクを GET や USE などの根幹部分に設け，他者の力を借りながらも，段階的に達成感や自己効力感を感じられるよう工夫をこらした。また 3 年間を通して，節目節目に Mini-Project を配置し，仲間との協同を通して 4 技能を統合しながら学習を深化させるようにも配慮した。

おわりに

学習者の自律性は一朝一夕には育たない。最初は，教師や仲間が提供する足場（Scaffolding）に依存しながら，ゆっくりと歩み出す。そして，徐々にその足場から離れてひとり立ちし，長い道筋を経て，（望むらくは）自らの責任と管理のもと学習を進めるようになっていく。中学の 3 年間は，上述した「ゆっくりとした歩みの過程」の「はじめの 1 歩」に相当しよう。*24NC* が，その歩みを支え，自律への一助となる教科書となれば，無上の喜びである。

[参考文献]

今井裕之（2011），英語の授業にもっと協同学習を．*Teaching English Now*, 20.
竹内　理（2007），『達人の英語学習法―データが語る効果的な外国語学習法とは』草思社．
竹内　理（2011），英語学習の Doing，Feeling，Thinking（1）．*Teaching English Now*, 20.